

生涯学習開講式

5月13日、生涯学習センターで、1992年バルセロナ五輪のシンクロロナイゼドスイミング銅メダリストの奥野史子さんを招いた生涯学習開講式記念講演会を開催しました。

五輪メダリスト 奥野史子さん講演

講演会では、「夢は叶う〜発想の転換から生まれる新しい自分」をテーマに、奥野さんが現役時代のエピソードなどを語り、市民200人が耳を傾けました。奥野さんは、93年のワールドカップで表彰台を逃したものの、翌年の世界選手権では芸術点オール満点で、日本人初の銀メダルに輝いた経験に触れ、「演技で人間の怒りや哀しみを表現する」という、新たなことに挑戦し続けてきたことが結果につながった。負けた

夢は叶う〜発想の転換から生まれる新しい自分

価値観の違い 認め合って

時に、何が必要かを見極めることが大切」と語りました。引退後には、世界で活躍するサーカス・エンターテインメント集団「シルク・ドゥ・ソレイユ」に約2年間所属。世界中から集まる出演者と作品づくりに挑戦した出来事について「価値観の違いに戸惑いもあったが、お互いに理解し認め合えば、新たな気付きにつながり、自身の考えの幅も広がる」と話しました。



講演会の様子



来場者を前に講演する奥野史子さん

水難者に見立てた人形をボートに引き上げる消防隊員



水難事故の増加が予想される夏に向け、消防本部が5月15日〜18日の4日間、宇治川御幸橋付近で水難救助訓練を行いました。同訓練は、水難現場での消防隊員の連携や救助活動の技術を向上させる目的で毎年実施しています。

▼宇治川ボートで救出

京都市消防航空隊と連携を確認

訓練では、「宇治川で人が流されている」と通報があった際を想定し、消防隊員が3人1組で乗り込んだ2艇の救命ボートで水難者の捜索を開始。上流から流されてきた水難者に見立てた人形を発見すると、迅速に近づいて手際よく引き上げ、救出を行いました。

▼ヘリで捜索情報共有

また、17日には、京都市消防局消防航空隊との合同訓練を実施しました。ヘリコプターに搭乗した京都市消防航空隊員が上空から水難者を捜索。無線で情報を共有しながら、八幡市の消防隊員が救命ボートで救助に向かうなど、水難事故発生時の連携を確認しました。

高齢ドライバー サポート講座

「はんなり運転」心がけて

「ドライバーシミュレーターを使って高齢者の運転技能などを確認する講座「ライイブシミュレーター」を使った疑似運転を体験しました。歩行者が急に飛び出すなど、さまざまな危険場面に遭遇した際の運転技能を確認したほか、光ったボタンを押す反射神経テストなどを通じて、安全運転への意識を新たにしていきました。夫婦で参加した川北政栄さん(74)は、「今回の体験で注意点を再認識できた。今後も安全運転を続けた」と話していました。



ドライバーシミュレーターで疑似運転の体験をする参加者

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

水難事故想定し訓練

今月のこの人

真実を写し 後世に伝える



永野 一晃さん
雑誌などの撮影のほか、写真クラブの講師や審査員も務めるフリーの写真家。八幡市在住。

「八幡市は松花堂や男山など、季節ごとに違う自然の風景を楽しめる場所が多くて面白いよね」と語るのは、市内在住の写真家、永野一晃さん。高校の合宿で訪れた長野県的美ヶ原で、偶然撮影した風景写真の地平線の美しさに感動し、カメラを始めた永野さん。専門学校を卒業し、民間企業で5年間広告写真の撮影に携わった

後、フリーの写真家に転身しました。これまでで最も印象に残っているのは、阪神・淡路大震災直後の被災地の撮影。倒壊した家屋など悲惨な光景が広がる中、「強く生きようとする人の生活

や被災地の実情を写真に残し、後世に伝えることが重要だと感じた」と話します。「最近は写真の加工が流行しているが、写真は真実を残すもの。撮影する際は『今を撮りたい』という気持ちを大切にしたい」と、これからも自身の直感を大切に、目の前に広がる世界を撮り続けます。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。